

### 3-b トキソプラズマ感染に関する研究

帝京大学医学部寄生虫学教室

亀井喜世子

トキソプラズマ感染が産婦人科領域で重要視されるのは、時として胎内感染による異常児の出産があるためであるが、どの程度の頻度でトキソプラズマ感染が原因の異常児出産があり、又慣性感染母親からの感染児の出産率など本邦には明確な資料がない。

更に妊婦がたまたまトキソプラズマ抗体を測定し、陽性にでた場合、妊娠を継続させるべきか、あるいは投薬すべきか等、臨床医にとっては切実な問題となる場合が多い。従来慣性感染母親から生れる児は、感染の影響を受けることがないとされながら、くわしい資料がないため、とるべき手段が定まらなかった。

今回、当大学産婦人科で出産した母親とその児の血清を継続的に手に入れることが出来、トキソプラズマ抗体陽性の母親から生れた児の生後の血清抗体価の動向を知る事が出来たので報告する。

#### 方法

当大学産婦人科で55年夏から55年末までに来院した妊婦について、出産時の母親血清、生後4日目の児血清のラテックス凝集試験(LA)を調べ、生後4日目児血清が陽性の場合には更に3ヶ月後、3ヶ月後血清が陽性の場合には6ヶ月後の血清を採取し、LA試験を行った。

#### 結果

表1に示す様に全部で341名の妊婦血清のLA陽性者は40名で11.7%であった。これは同年令の一般人の抗体保有率よりやや低い程度である。そのうち生後4日目の児血清が陽性を示したのは37名(10.8%)

であった。この37名の抗体保有児の中で生後3ヶ月を経過しLA試験を行い得たものは20名で、そのうち継続して抗体を保有していた者は4名(20%)で、更にこの4名のうち生後6ヶ月経過し、LA試験を行い得たものは今までのところ2名で、抗体保有者は0であった。

表2にLA試験陽性の母親20名から生れた児の4日目、3ヶ月後、6ヶ月後のLA試験の価を示した。この表からわかる様に、現在まで調べ得た生後4日目に抗体を保有していた20名の児は4例をのぞきそのほとんどが3ヶ月目に抗体価が0になっており、生後3ヶ月目でも陽性を示した4名の追跡調査で調べ得た2名共、6ヶ月目には陰転していたことから、これらの抗体はIgG抗体で、母親由来の移行抗体と思われる。なお4日目血清のIgM抗体を調べたが、いずれも陰性で、この事からもこの20名の中には先天性感染児がいないといってもいいのではないかと思われる。

いまだ例数が少なく、これだけの事から結論めいた事を言うわけにはいかないが、慣性感染と思われる母親から生れる子供は、母親由来抗体は検出出来たが、少くとも6ヶ月目には陰転していることから、血清反応の抗体価のみから、人工中絶、投薬などという手段を取る前に一考の余地があるものと思われる。なお、この研究を継続して更に例数を増やし先天性感染の問題を児の側から更に進めて見たい。

表1

母 親	生 後 4 日 目	生後4日目陽性で 3ヶ月目陽性	3ヶ月目陽性で 6ヶ月目陽性
40 / 341 (11.7%)	37 / 341 (10.8%)	4 / 20 (20%)	0 / 2 (0%)

表2 トキソプラズマ陽性母親から生れた子供の抗体価の推移

	Latex agglutination (LA) titer			
	母 親	子 供 (生 後)		
		4 日 目	3 ケ 月	6 ケ 月
1	64	128	32	0
2	64	64	0	
3	128	512	0	
4	32	64	0	
5	256	512	64	
6	32	32	0	
7	256	512	64	0
8	128	128	0	
9	64	64	0	
10	32	32	0	
11	64	128	0	
12	32	64	0	
13	1024	32	0	
14	1024	512	32	
15	64	128	0	
16	64	128	0	
17	128	32	0	
18	128	128	0	
19	128	64	0	
20	128	128	0	



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



トキソプラズマ感染が産婦人科領域で重要視されるのは、時として胎内感染による異常児の出産があるためであるが、どの程度の頻度でトキソプラズマ感染が原因の異常児出産があり、又慣性感染母親からの感染児の出産率など本邦には明確な資料がない。

更に妊婦がたまたまトキソプラズマ抗体を測定し、陽性にでた場合、妊娠を継続させるべきか、あるいは投薬すべきか等、臨床医にとっては切実な問題となる場合が多い。従来慣性感染母親から生れる児は、感染の影響を受けることがないとされながら、くわしい資料がないため、とるべき手段が定まらなかった。

今回、当大学産婦人科で出産した母親とその児の血清を継続的に手に入れることが出来、トキソプラズマ抗体陽性の母親から生れた児の生後の血清抗体価の動向を知る事が出来たので報告する。